

リヒタ先生を送る－敬意と感謝をこめて－

高等教育推進センター長 佐々木 民夫

本センター基盤教育部外国語部門の教授ウヴェ・リヒタ（Uwe Richter）先生は、本年度末をもって定年によって本学を去られることになった。まずもって1998（平成10）年の本学開学時に本学専任教員に就任以来の、リヒタ先生の教育・研究面における数々のご業績と、本センターのために果たされてきた多くのご尽力に対して、深甚なる敬意と感謝とを申し上げねばならない。リヒタ先生、長い間本当にありがとうございました。

ドイツ・ボンフェルトにお生まれのリヒタ先生は、ハイデルベルグ大学で中国語と中国史をご専攻なされ、同大学をご卒業後4年間に及び留学された中国では北京語言学院、北京大学で中国語と中国近現代史のご研究を深められた。その間のリヒタ先生のご研究の成果は、1988年にハンブルグの「アジア学研究所」から“Die Kulturrevolution an der Universität Beijing”として刊行され、ハイデルベルグ大学から学位を授与されている。同書は、その後増補されて『北京大学の文化大革命』（岩波書店）として刊行されているのは周知のとおりである。同書の他、リヒタ先生には、『ヒトラーの長き影』（1995年刊、三元社）のご著書、さらには、宮澤賢治の「ケンタウル祭」の由来と意義とをドイツ文化との関わりのなかで詳述されたご論文など数多くあり、その多岐にわたる研究領域と緻密な論証は知られるとおりである。

中国留学後に来日されたリヒタ先生は、東京ドイツ文化センター及び欧日協会、そして岩手医科大学におけるドイツ語教育ご担当を経て、本学専任教員としてご就任なされた。本学にご就任以来リヒタ先生は、4学部共通の外国語科目「ドイツ語」、「東アジアの文化事情」等の教養科目をご担当なされ、グローバル化のなかで活躍が期待される本学学生に対して多文化理解・多文化共生のありようと将来へのビジョンを、ご自身のご経験を踏まえてご講義なされた。また、リヒタ先生は、本センターの前身である共通教育センターにあってはセンター長の要職に就かれるなど、本センターの運営にご尽力なされるとともに、本学教育における教養教育・基盤教育の重要性について多くの貴重なご提言をなされてこられた。

リヒタ先生の学生教育への情熱は知られるとおりであるが、2011（平成23）年3月に発災した東日本大震災津波の後、リヒタ先生が提唱して実現したドイツの大学及び諸機関と本学をはじめとする大学関係者等との連携による被災地支援の活動は、リヒタ先生の被災地に学ぶ学生への教育者としての情熱が結実した成果であり、当時リヒタ先生のお考えを何度か伺いする機会があった者として、いま改めリヒタ先生へ敬意を表する次第である。

お別れするに当たり、常に颯爽として歩き、周囲に多くの人の輪（和）を築いてこられたリヒタ先生の18年間に及ぶ本学、本センターにおける数々のご業績とご功績に重ねて敬意と感謝を申し上げ、今後のご健勝とご活躍を切にお祈り申し上げる次第である。